

ごっくん給食

令和8年1月
くまの

ふゆやす 冬休みが終わり、いよいよ3学期が始まりました。昔から「一月往ぬる
にがつに 二月逃げる三月去る」といわれてきたように、年度末に向けて月日が流れ
るのを早く感じる時期です。風邪やインフルエンザも流行しています。
たいちょうかんり 体調管理にはより一層気をつけて、1日1日を大切に過ごしてほしい
おも と思います。

今年はうま年！



うまのように野菜を
たっぷり食べよう！



箸をうまく使いこなして
きれいに食べよう！



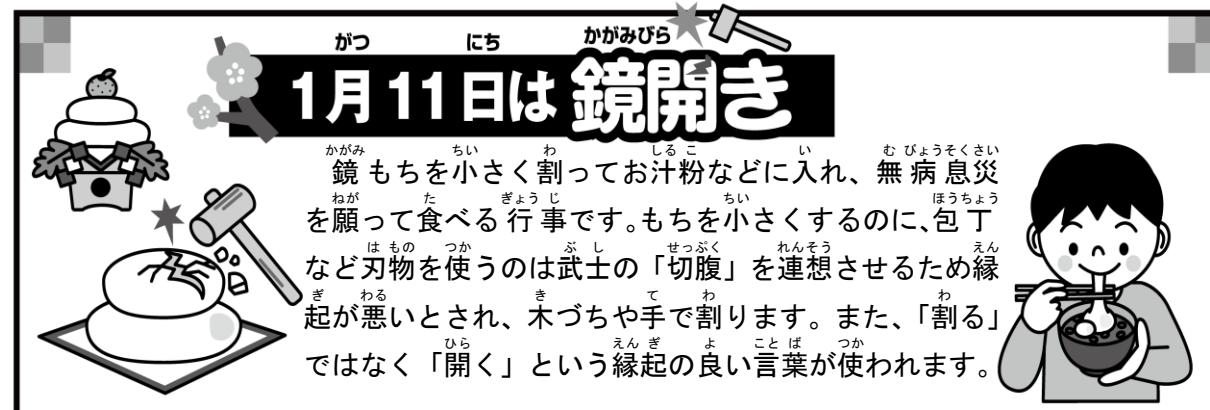
よく味わってうま味
を感じよう！



お年玉はもちだった！？



お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多かったのではないか
でしょうか。さて、子どもたちにとって、お正月の楽しみといえば
お年玉。新年を祝って、大人から子どもへお小遣いを渡す風習です。
もともとは、お正月の「歳神様（年神様）」にお供えした「もち」を、歳神様からの贈り物と
して分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂」を意味します。



1月11日は鏡開き

かがみ 鏡 もちを小さく割ってお汁粉などに入れ、無病息災
ねが 願って食べる行事です。もちを小さくするのに、包丁
はの など刃物を使うのは武士の「切腹」を連想させるため縁
ぎわる 起が悪いとされ、木づちや手で割ります。また、「割る」
ひら ではなく「開く」という縁起の良い言葉が使われます。



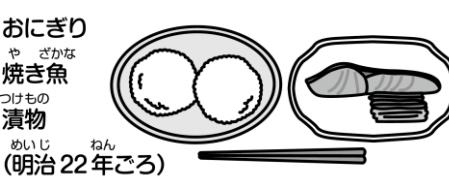
1/24～1/30は
「全国学校給食週間」です

にほん がつ こう きゅう しょく

日本の学校給食のあゆみ

学校給食の始まり

めいじ 明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが日々をしてお経を唱え、いたいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。



おにぎり
やさかな
焼き魚
つけもの
漬物
めいじ
(明治22年ごろ)

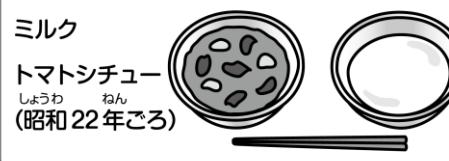


ごしき
五色ごはん
えいよう
栄養みそ汁
たいしょ
(大正12年ごろ)



支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（アジア救援団体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。



ミルク
トマトシチュー
昭和22年ごろ



コッペパン・ミルク
たつたあ
クジラの竜田揚げ
せん切りキャベツ
昭和25～30年ごろ



バラエティー豊かな献立内容に

昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実してきました。



ミートスパゲッティ
ぎゅうにゅう
牛乳



カレーライス
ぎゅうにゅう
牛乳・塩もみ
たまご
ゆで卵
昭和51年ごろ

